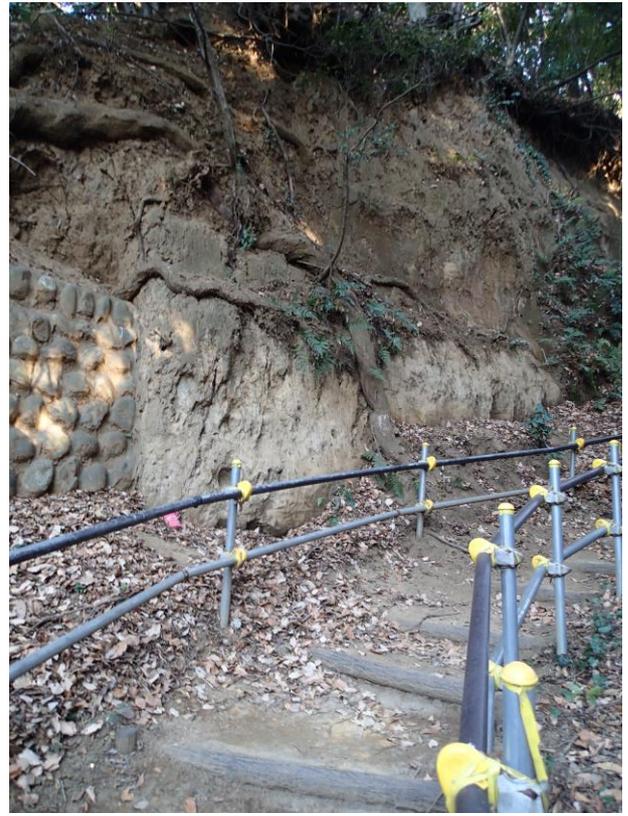


〈6万年後は？〉

家から歩いて5分ほどの場所に、露頭が見える坂がある。上段と中段を結ぶ大正坂だ。この場所は地層に興味ある人には良く知られているようで、たまにそれらしき人が数人でここにきて何やら調査したり話し合ったりしている。詳しいことは知らないが、何万年も前ここは川だったところで、証拠の礫が見られ、さらにその上に火山灰が積もって今のような地層になったようだ。少なくともここに積もっている土は6~7万年前のものということだ。最近100年に一度の大雨とか、猛烈台風とかよく聞くが、地球の年齢を1年とすると、100年はたった1秒にも満たない時間だ。6万年は人間の歴史からすると途方もない時間だが、地球の歴史から見たらほんの10分程度の時間に過ぎない。パンゲア大陸からの大陸移動などというとても出来事から比べたら、数万年前の火山灰などそれこそ“チリ”が積もった程度の出来事でしかないのだが、そんな“チリ”の上に人は畑を耕し家を建てひしめき合っている。6万年後、この地層の上にはどんな光景が見られるのだろうか？富士山が爆発した火山灰で何メートルにもわたって埋め尽くされてしまうの



か？砂漠化した大地が不毛の地になってしまうのか？はたまた、氷河期が訪れて万年雪に閉ざされてしまうのか？その時、“ヒト”はこの地球上に存在しているのか？昨日上弦の月を見たせいか、感覚が広がりすぎて現実感がない。6万年前の土を前にして、70年近く生きてき意味を問う。6万年後に果たしてヒトの痕跡は地層の中に堆積しているのだろうか？